



兵庫県立教育研修所の年次研修

若手教員の指導力育成リーフレット

小・中・義務教育学校の
初任者・指導教員 必見！

初任者が笑顔で 子ども達と向き合うために

-校外研修の学びを日々の実践に生かす-

「初任者は、どのような研修を行っているの？」という声をお聞きすることがあります。兵庫県立教育研修所が実施する年次研修において、大切にしていること、受講者に伝えていることを紹介します。

兵庫県立教育研修所の研修では、

「めざす子どもの姿」

をキーワードに、授業づくりについて考えるようにしています。

記述の内容 発言の内容 思考の中身
つぶやきの内容 技能等の内容

【めざす子どもの姿】として
▶具体的にイメージする

「めざす子どもの姿」とは、本時のねらいを具体的にしたものです。

例えば

- ・「こんなことを書いてほしい」という記述
- ・「こんなことを発言してほしい」といった発言の内容です。

初任者研修では、子ども達を書いたり発言したりしている姿等、子どもの言葉で具体的にイメージするように伝えています。

また、記述や発言、つぶやきのようにアウト

プットできるものばかりではなく、見るができない思考の中身等も含まれます。技能に関しては、「こんなことができるようになってほしい」「こんなふうに取り組んでほしい」といった姿となります。研修では、「めざす子どもの姿」を、より具体的にイメージするようにしています。

具体的な「めざす子どもの姿」をイメージするのはどの場面？

例えば、1時間の授業で、導入・展開・終末（まとめ）というような学習場面を設定した場合、どの場面でめざす子どもの姿をイメージすればよいのでしょうか。

授業の振り返りの場面だけでなく、右図のように、それぞれの学習場面においても、「めざす子どもの姿」をイメージすることが大切です。

本時のねらいに迫る「めざす子どもの姿」を学習場面ごとにイメージすることによって、各場面での子ども達への適切な指導や支援につなげる、「目標－指導－評価」の一体化をめざした授業づくりを大切にしています。

導入 こんなことに気が付いてほしい。

展開 こんな発言をしてほしい。
 こんなことを考えてほしい。

終末(まとめ) こんなことを書いてほしい。

【めざす子どもの姿】として
▶具体的にイメージする
▶学習場面ごとにイメージする



見通しをもつと
学びが変わる！

振り返りが日々の
実践につながる！

初任者のみなさん



校外研修の学びを共有することで初任者の可能性を引き出す！

初任者の不安はこうすれば軽減される！

指導教員のみなさん

初任者のみなさんへ



見通しをもつと学びが変わる！

年次研修にシラバスがあることを知っていますか。研修内容や研修のねらいが掲載されていますので、事前に確認し、受講する目的(自身の課題、学びたいことなど)を明確にすることによって、研修の学びが確かなものになります。

(例)「道徳科授業づくり(中学校)」

【研修前】



子どもの発言によって予想していない展開にならないか、**不安**を持っています。1人の発言から全体で対話するための**工夫が学びたい**です。

主体的な学び

【研修後】



「ねらいに迫る子どもの姿」から、それに沿った中心発問を考え、補助発問や「問い返し」等を用いて、教科書の本文には記載されていない、子どもの中にある気持ちを引き出す授業づくりを学ぶことができました。

ポイント

上記のように、研修前に自分自身の課題や不安、学びたいことを明確にしておくことで、研修後の振り返りの記述が、教科の本質に迫る具体的な内容になります。



振り返りが日々の実践につながる！

初任者研修の振り返りを、毎回「リフレクションシート」に記入します。研修での学びを踏まえ、自身の実践を振り返ることが指導力の向上につながります。

(例)「国語科授業づくり(小学校)」

学びのつながり

研修前は、読み取りが苦手な児童に対して、どのように指導したらいいのかが本当に不安で、少しでも手立てが知りたいと思っていました。今日の研修を通して、ねらいに迫るための切り口や学習内容などがよく分かる板書計画を考えることができました。**時系列で並べたり、心情曲線を使ったりして、視覚的に捉えることができる板書を、早速明日から実践したいと思います。**



ポイント

明日からの実践に取り入れたいことが具体的にになります。この積み重ねが大切です。

過去の「リフレクション通信」は、こちらの二次元コードからダウンロードすることができます。



指導教員のみなさんへ



学びの共有で初任者の可能性を引き出す！

初任者の校外研修での学びを互いに共有することで、初任者の成長を見取ることができ、適切な助言につながります。この営みは初任者の日頃の実践や姿勢を価値付け、初任者の自己肯定感や学ぶ意欲の向上につながります。

初任者の振り返り

単元の計画をする際に、まず、子ども達に気付いてほしいこと、考えてほしいことを洗い出し、次に、評価の観点ごとに振り分け、最後に学習方法を考えました。そうすることで、授業中のどこに重点を置くのかがとても明確になり指導においても「めあて」をわかりやすく提示できると感じました。

学びの共有



指導教員のフィードバック

毎回の授業で、めあてを立てることは時間がかかりますが、子ども達にも教員にとっても、わかりやすい授業をするために大切なことですね。学習評価にもつながりますので、意図を明確にして、めあてを提示できる授業を日々心がけてください。少しずつ頑張ってください。

ポイント

初任者の学びや気付きを踏まえながら、授業づくりにつながるポイントを伝えています。初任者を認め励ますコメントは自信につながります。

令和4(2022)年度指導教員の「初任者との関わりで工夫したこと」等をまとめました。こちらの二次元コードからダウンロードすることができます。



学校全体で学びの共有を！

右のグラフは、初任者を対象とした意識調査の結果です。

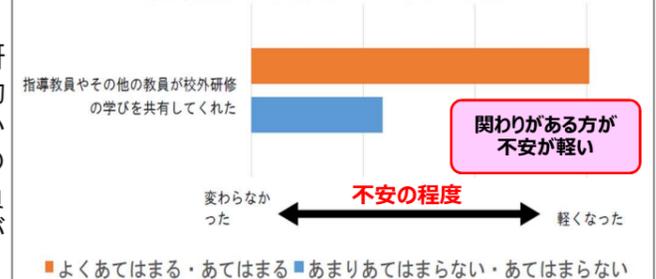
上のグラフからは、管理職や指導教員と校外研修の学びを共有している初任者の方が、教育活動に対する不安や悩みが軽くなっていることがわかります。一方で、下のグラフでは、指導教員との共有は行われているものの、指導教員以外の教員との校外研修の共有が十分ではないという現状がうかがえました。

多忙を極める学校現場において、なかなか難しいことなかもしれませんが、学校全体で初任者を支え・認め・励ます体制づくりにお力添えをお願いします。

自分も初任者の頃は、苦勞したもんな…。



指導教員等との関わりと不安の関係



初任者への関わり

